

第4章 主な広域対応施設の現状把握

4章では、3つの広域対応施設について現状を整理しました。

(1) 市民病院

① 概要

藤沢市民病院は1971年（S46）に開院しました。現在の総病棟数は536床です。開院時から地域医療機関との連携と機能分担による病院運営を進めてきましたが、2000年（H12）に神奈川県下で初めて医療法に基づく「地域医療支援病院」に承認されました。

2005年（H17）には、国から「地域がん診療拠点病院」（現在の地域がん診療連携拠点病院）の指定を受け、翌2006年（H18）には、救命救急センターを開設し、地域医療支援病院の役割の1つである救急医療の充実に取り組んでいます。

外来診療は、地域医療連携に基づいた紹介予約制により臓器別の25診療科からなる専門外来、地域の医療機関からの紹介によらず、受付順により診療する小児科及び24時間体制で診療を行う救急外来からなります。

■外来

<input type="checkbox"/> 専門外来（25科）	内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・腎臓科・外科・消化器外科・呼吸器外科・小児科・産婦人科・脳神経外科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・神経科・形成外科・歯科口腔外科・放射線科・心臓血管外科・リハビリテーション科・麻酔科・神経内科・血液膠原病科
<input type="checkbox"/> 小児科	
<input type="checkbox"/> 救命救急センター	

■診療時間等

<input type="checkbox"/> 診療時間	9:00 ~ 17:00	<input type="checkbox"/> 診療日	月 ~ 金（祝祭日除く）
<input type="checkbox"/> 受付時間	8:30 ~ 11:00（小児科）		

■湘南東部医療圏

神奈川県では「神奈川県保健医療計画」で、健康づくりから疾病の予防・治療・社会復帰までの総合的な保健医療体制を整備するための地域単位として、1次、2次及び3次の保健医療圏を設置しています。

本市は、2次保健医療圏のうち茅ヶ崎市や寒川町を含む「湘南東部医療圏域」に属しています。

藤沢市民病院は湘南東部医療圏域の地域医療支援病院となっており、圏域全体の11.8%の病床数を占めています。

また、救急外来の搬送数は、時間内・時間外合わせて年間3万559人となっており、湘南東部医療圏の救急患者数（8万4,391人）の約36%を占めています。

図 湘南東部医療圏内に占める藤沢市民病院の状況

	湘南東部医療圏	藤沢市民病院
病床数(H19.2.21)	4,551 床	536 床 (11.8%)
救急患者数	8万4,391 人	3万559 人 (36.2%) ・時間内 7,308 人 ・時間外 2万2,251 人

② 経営分析に関する指標

総務省自治財政局編「地方公営企業年鑑」をもとに、藤沢市民病院の経営分析に関する概要を以下にまとめました。

藤沢市民病院			
1. 病床数		計 536床	
一般		530床	
感染症		6床	
2. 病床利用率		計 91.3%	
一般		92.40%	
感染症		0.50%	
3. 平均在院日数(一般のみ)		15.4日	
4. 患者数			
1日平均			
入院		469人	
外来		1,380人	
外来患者比率(%)		197.50%	
職員1人当り患者数			
医師			
入院		5.1人	
外来		10.1人	
看護部門			
入院		0.9人	
外来		1.8人	
5. 収入			
患者1人1日当り診療収入(円)			
ア.入院		45,892円	
うち 投薬		895円	
注射		4,692円	
処置・手術		11,084円	
検査		2,288円	
放射線		1,304円	
入院料		23,485円	
給食		1,466円	
その他		678円	
イ.外来		10,779円	
うち 投薬		1,125円	
注射		1,810円	
処置・手術		606円	
検査		2,569円	
放射線		1,593円	
初診料		434円	
再診料		602円	
その他		2,039円	
職員1人1日当り診療収入(円)			
ア.医師		344,319円	
イ.看護部門		60,121円	
6. 費用			
患者1人1日当り薬品費(円)			
ア.投薬		1,027円	
イ.注射		2,763円	
入院患者1人1日当り給食材料費		686円	
薬品使用効率(%)		計 101.0%	
ア.投薬		102.00%	
イ.注射		100.60%	
7. 診療収入に対する割合(%)			
投薬収入		4.60%	
注射収入		12.30%	
検査収入		11.00%	
放射線収入		6.60%	
8. 医業収益に対する割合(%)			
職員給与費		50.60%	
薬品費		15.50%	
その他の材料費		13.40%	
9. 検査の状況			
患者100人当り検査件数		404.4件	
患者100人当り放射線件数		26.2件	
検査技師1人当り検査件数		58,841件	
検査技師1人当り検査収入		36,005千円	
放射線技師1人当り放射線件数		5,561件	
放射線技師1人当り放射線収入		31,747千円	
10. 室料差額の状況			
1人1日当り徴収額			
ア.個室	最高	31,500円	
	最低	6,300円	
イ.2人以上	最高	7,560円	
	最低	2,520円	
室料差額対象病床数/総病床数		15.70%	
11. 病床100床当り職員数			
医師		25.0人	
看護部門		103.0人	
薬剤部門		4.0人	
事務部門		9.7人	
給食部門		5.1人	
放射線部門		4.5人	
臨床検査部門		6.5人	
その他部門		3.0人	
12. 全職員数			
735人			
13. 一床当り固定資産			
償却資産		25,194	
うち 建物		19,531	
器械・備品		5,152	

③ 診療科別の患者数

2007年度（H19年度）の病床数は536床で、患者数は50万6,960人です。

2002年度（H14年度）からの6カ年の推移では、2006年度（H18年度）の救命救急センターの開設により30床増加しています。

患者数は、2002年度（H14年度）の約54万人をピークに減少傾向にあります。

職員数は、救命救急センターの開設などにより、2006年度（H18年度）から増加傾向にあり、2002年度との比較では78人増加しています。

表 病床数・患者数・職員数の推移

救命救急センター開設

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
病床数(床)	506	506	506	506	536	536
患者数(人)	540,328	539,096	531,329	523,925	509,271	506,960
職員数(人)※	669	670	689	686	735	747

(※各年度3月31日現在)

④ 職種別職員定数

2007年度（H19年度）の職種別の職員定数では、医師が92人、理学療法士や作業療法士、臨床検査技師などの医療技術部門が107人、看護部門が496人、事務員が40人、医療支援部が13人となっています。

表 職種別職員数

区 分		定 数	区 分		定 数
診療部	医師	92	事務員	事務員	37
	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	6		写真・業務等	1
	臨床検査技師	30		放射線技師	2
	薬剤師	24			
	栄養士・調理師	18			
	事務・助手等	25			
	小計	4		小計	40
看護部	看護師等	468	医療支援部	事務員	5
	保育士	1		看護士	4
	看護助手	19		臨床工学技士	4
	医療事務員	8		小計	13
	小計	496		合計	748

⑤ 建物状況

藤沢市民病院は、東館（1971年築）、西館（1989年築）、外来棟（2000年築）及び救命救急センター（2006年築）を主体とした施設運営を行っており、延べ4万3,781㎡です。

施設の整備は市民病院施設改修計画に基づいて行っています。

東館は、2009年度（H21年度）に耐震診断を実施する計画となっており、診断結果によっては、補強などの対策が必要となります。

エネルギー棟（1987年築）は、築20年以上が経過し、建物・電気・機械設備等が老朽化していることから、2009年度に設計委託を行い2013年度（H25年度）まで、年次計画により大規模改修を計画しています。

なお、ボイラー等の熱源設備については、ESCO事業（民間資金の活用）を導入し、2007年度（H19年度）に更新が終了しています。

⑥ コスト状況

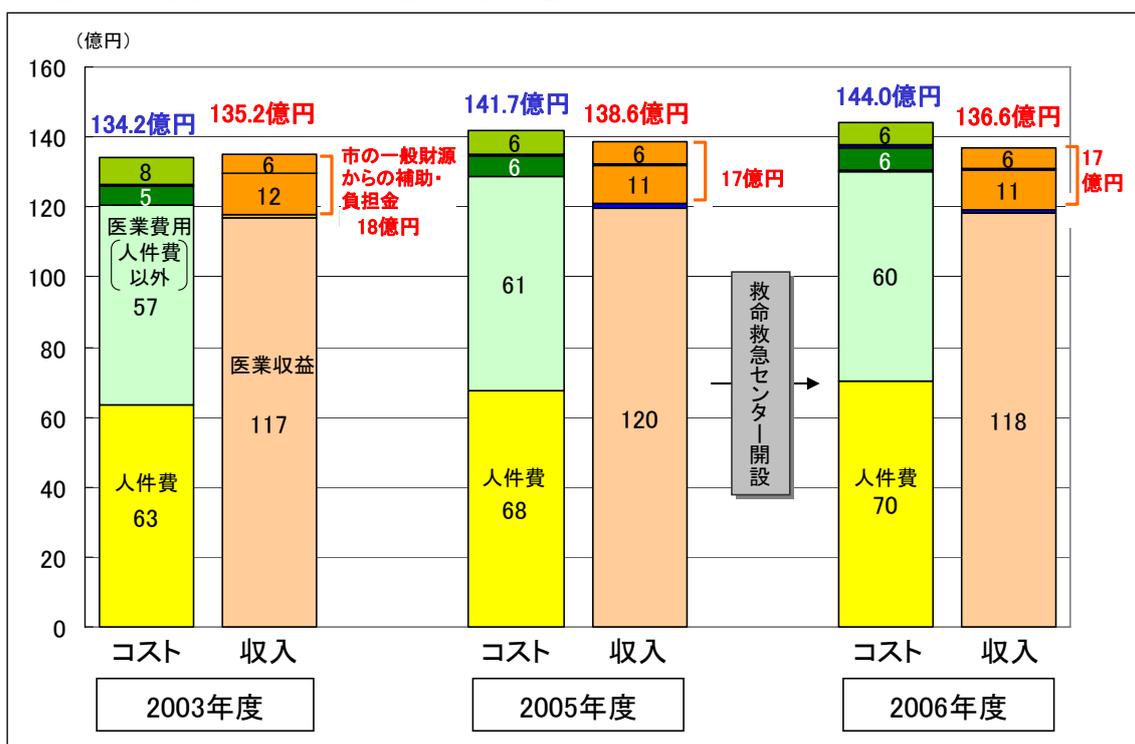
藤沢市民病院の2006年度（H18年度）のコストは144億円、1年間の収入は約136.6億円で、約7億円の損失となっています。

これを前年度までの利益剰余金約6.6億円で補填しましたが、なお約0.4億円の損失となっています。

2003年度（H15年度）とのトータルコストの比較では、救命救急センターの開設などにより職員数が増加し、約10億円増加しています。また、収入では約1.4億円の増加となっていますが、差引きで3カ年で約8.6億円の損失が出ています。

市の一般財源からは毎年約17億円の補助負担金を支出しています。

図 藤沢市民病院 行政コスト計算書（損益計算書）



(2) 市民会館

① 概要

市民会館は、市民文化の向上と福祉の増進に寄与することを目的に、1968年(S43)に開館しました。施設内の大ホール(1,380席)では藤沢市民オペラや演劇などの文化事業が定期的に行われる他、高齢者福祉大会やふじさわ環境フェアなどの大規模な事業にも使用されています。

大ホールの他にも小ホール(434席)やリハーサル室、展示集会ホール、レストランなどがあり、施設全体の延床面積は約1万590㎡です。

また、同一敷地内には有形文化財の「旧近藤邸」があり、南市民図書館、秩父宮記念体育館などの施設も隣接しています。

■ 施設概要及びスペース構成

施設名称	敷地面積 (㎡)	建物延床面積 (㎡)	所在地	建築年度 (年)	運営日数 (日)
市民会館	17,754.16	10,589.84	藤沢市鵠沼東8-1	1968年	304

<棟別>

		施設概要	延床面積	構造	建築年度
1. 大ホール棟・小ホール会館棟	大ホール棟	大ホール(1,380席)、楽屋、リハーサル室、シャワー室	4,853.3	鉄筋コンクリート造	1968
	小ホール会館棟	小ホール(434席)、楽屋、シャワー室、展示ホール、会議室 等	4,035.9		
2. 第一展示集会ホール棟		第1展示集会ホール(373㎡)、ロビー、レストラン	1,603.5	鉄骨造	1986
3. 事務室			40.5	軽量鉄骨造	1980
4. 排煙塔			56.6	鉄筋コンクリート造	1968
			10,589.8		

<分館>

		施設概要	延床面積	構造	建築年度
旧近藤邸		(国登録有形文化財)(1981年移築)	173.4	木造2階建	1925

市民会館(1万590㎡)は、主にホール機能(4,905㎡)が全体の約46%を占めており、ホールに付属するリハーサル室や楽屋などを含めると施設全体の約47.8%を占めています。その他、展示機能約693㎡(7%)や会議・集会機能約575㎡(5%)などがあります。

市民会館は、2008年度(H20年度)に耐震補強工事を行い既に安全性を満たしていますが、施設全体が老朽化しており、このまま使用していく場合は、設備などを含めた大規模改修が必要であるとともに、身体障害者等への対応としてバリアフリーの対応も行う必要があります。

■ 運営時間

全館 9:00 ~ 22:00 (受付 9:00 - 17:00)
(休) 毎週月曜日、休日の翌日、12/28 ~ 1/4

■ 主な事業(例)

藤沢市民オペラ
 高齢者福祉大会
 ふじさわ環境フェア 等

② 利用状況

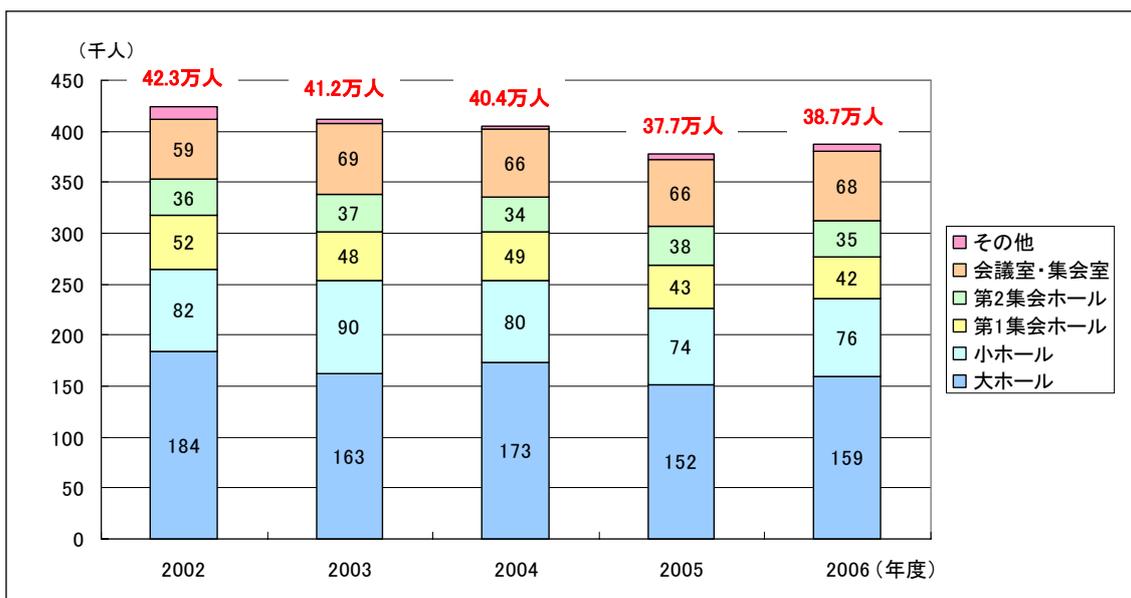
1) 利用件数・利用者数

2006年度（H18年度）の利用件数は年間5,387件、利用者数は38万6,610人となっています。1日当たり平均約18件、約1,272人が利用しています。

2002年度（H14年度）からの年間利用者数の5カ年の推移をみると、2002年度に比べ約3.6万人、約8.5%減少しています。

利用機能別の内訳をみると、大ホール、小ホールの利用が減少しており、会議・集会機能の利用が増えています。このうち大ホールの利用者の減少は、音響設備等の改修のため、約1カ月間ホールを休館したことによるもので、2005年度（H17年度）の減少も設備改修に伴う休館によるものとなっています。

図 利用機能別の利用者数の推移



③ 運営状況

市民会館は、市の職員 4.9 人と施設利用に関する受付・案内、舞台管理業務などを委託している委託先の従業員 21 人、合わせて 25.9 人で維持管理・運営を行っています。

市の職員は、施設全体の管理・運営や各種主催事業の企画・開催などを行っています。

市民会館事業の効率的な運営を行うため、施設利用に関する受付・案内や舞台管理業務、清掃・警備等の施設管理を「藤沢市民会館サービスセンター株式会社」に委託しています。

市の職員の業務別の人員は、施設全体の管理業務に 2.8 人、各種主催事業の企画・開催に 1.3 人、その他事務業務に 0.8 人となっています。(1 人が複数の業務を担当している場合、業務量で按分しているため、小数点以下があります。)

注：藤沢市民会館サービスセンター株式会社は、市民会館事業の効果的な運営を図るため 1968 年 (S43) に藤沢市と「株式会社さいか屋」が共同出資して設立した企業です。

また、市が主催する自主事業以外に市が出資している「財団法人藤沢市芸術文化振興財団」(市民会館内に事務所を設置) が市民オペラや演劇、ミュージカル等の文化事業を主催しています。

表 市民会館業務内容及び運営人員

	業務内容	2006
市の職員 担当業務	・市民会館管理業務 ・市民会館整備事業 ・文化行政一般事務	2.8
	・各種講座・文化事業等の主催	1.3
	・その他 (財団指導・文化振興基金積み立て・湘南 台管理等業務)	0.8
	合計	4.9
委託会社職員 担当業務	・施設利用に関する受付・案内 ・舞台管理業務 ・施設の清掃・警備、保守点検等	21.0
		25.9

「藤沢市民会館サービスセンター株式会社」
(1968年設立 藤沢市、株式会社さいか屋の共同出資)

④ コスト状況

2006年度（H18年度）のトータルコストは、6億5,325万円です。

その内訳は、事業運営にかかるコストは2.5億円（38%）

施設にかかるコストは 4.0億円（62%）となっています。

トータルコスト約6.5億円のうち、事業運営にかかるコストや施設の光熱水費、維持管理委託費等の毎年経常にかかるコストは約5.5億円で、約84%を占めています。

2005年度（H17年度）との比較では、施設の修繕費等が約0.4億円増加しています。

事業運営にかかるコスト約4.0億円のうち、財団法人藤沢市芸術文化振興財団や文化活動を行っている各協議会への負担金、補助金として、トータルコストの約30%にあたる約1.8億円を支出しています。

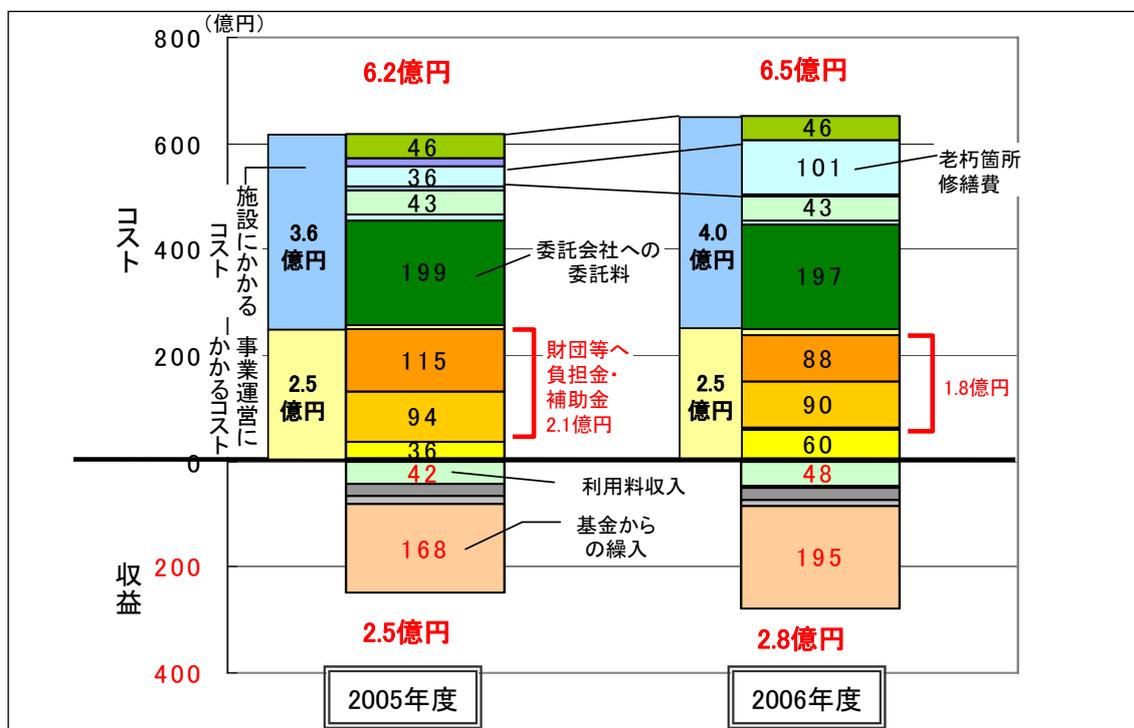
一方、藤沢市民会館サービスセンター株式会社への委託料は毎年約2億円です。

2006年度の収益は約2.8億円となっていますが、そのうち約70パーセントの約2.0億円が文化振興基金からの繰入金となっています。

収益のうち、利用者の利用料収入は年間約0.5億円で、トータルコストの約7%となっています。

今後、耐震補強や老朽化に伴う修繕などのコストが、さらに大きくなっていくと予測されます。

図 市民会館トータルコスト



(3) 湘南台文化センター

① 概要

湘南台文化センターは、市の文化創造の拠点施設として、「こども」「地域」「対話」の3つを理念に、公開プロポーザルで最優秀作品となった女性建築家の設計により、1987年（S62）～1990年（H2）を2期に分けて設置しました。

施設内には子供達が自由に来館し、科学や文化を体験できる体験型展示、プラネタリウムによる宇宙劇場、親と子が共同で参加するワークショップなどを行う「こども館」や「市民シアター」があります。

また、湘南台地区の拠点施設である「湘南台市民センター・公民館」や子育て支援の場としての「湘南台子育て支援センター」を併設しています。

湘南台文化センターは築18年を経過し、今後建物の外装や内装、設備等の1回目の修繕・更新時期を迎えます。しかし、建物が独特な形状をしており、メンテナンスなどを含め、他の施設よりコストがかかることが見込まれます。

また、施設内の展示内容の更新やプラネタリウムの設備更新にも多くのコストがかかり、今後、施設全体に多額のコスト負担が生じることが予測されます。

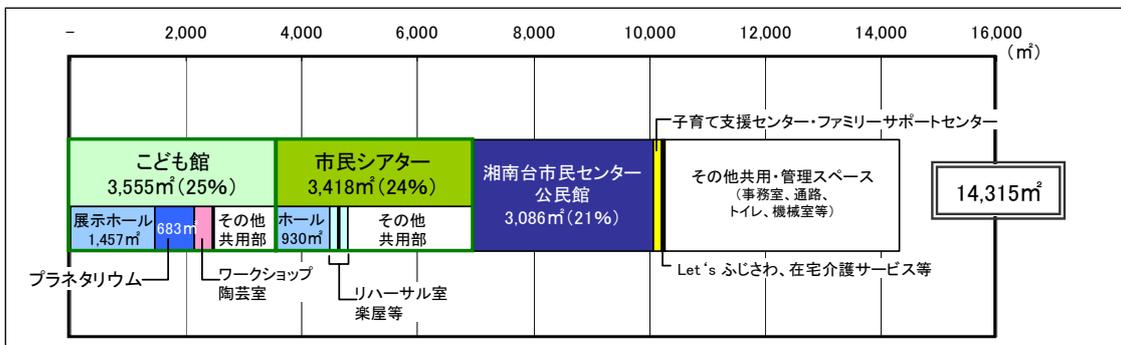
■施設概要

施設名称	敷地面積 (㎡)	建築延床面積 (㎡)	所在地	建築年数	運営日数	
					市民シアター	こども館
湘南台文化センター	7,786.38	14,315.34	藤沢市湘南台1-8	1989年	304日	300日

<機能別構成>

	施設概要	延床面積 (㎡)	建築年数 (年)
1. こども館	プラネタリウム(70mm全天周映画上映設備併設)、展示室、ワークショップ(工房室)	10,897.82	1989
2. 市民センター・公民館	地域行政サービス窓口、公民館施設(会議室・ホール・体育館等)		
3. 市民シアター	多目的ホール(固定席600席)、リハール室(収容人数80人)、スタジオ、楽屋(4室)	3,417.52	1990
4. 駐車場・駐輪場	普通車80台程度、自転車60台程度		
5. その他施設	屋上廻遊散策路、せせらぎ等		
6. 湘南台子育て支援センター(地下1F)	子育てひろば 月～土 10:00～15:00 個別相談 月～土 9:00～16:00 子育て情報 月～土 9:00～16:00		

<スペース構成>



② 利用状況

利用状況は大きく「こども館」「市民シアター」の2つに分けて整理・分析しました。

1) こども館

こども館の利用状況の内訳として、「展示ホール」「宇宙劇場」「ワークショップ・陶芸教室」に分けて整理しました。

2006年度（H18年度）のこども館全体の利用者は、約13.2万人で、1日当りでは440人が訪れています。これは公民館の1日の利用者数とほぼ同じです。

2003年度（H15年度）と比較すると、約1.4万人（10%）減少しています。

■展示ホール

展示ホールでは、手で触れて音を出したりする体験型展示や天文・宇宙関係の展示、ビデオギャラリーなどが利用できます。

2006年度の展示ホールの入館者数は8万521人で、こども館全体の約61%を占めています。1日当りでは約268人が訪れています。

そのうち、一般利用が約6.9万人と全体の約86%を占めています。子ども達が自由に来館して利用する他、学校等での課外授業などで利用されています。

平日、土日の1日当りの入館者数は、平日が約195人、土日が約388人と比較的土日での利用が多くなっています。

■宇宙劇場

宇宙劇場では、プラネタリウムを使用したテーマ番組の上映会（1日4回～5回）、当日の星空の解説などを行っています。

2006年度の宇宙劇場の利用者数は、5万1,247人です。1日当り平均では約171人が訪れており、一般利用が約3.9万人と全体の約77%を占めています。

平日、土日の1日当りの入館者数は、平日約164人、土日約182人と比較的土日の利用が多くなっていますが、上映回数は、土日が561回と平日296回と比べ多くなっており、上映1回当りの利用者数は土日が約36人、平日が約62人となっています。

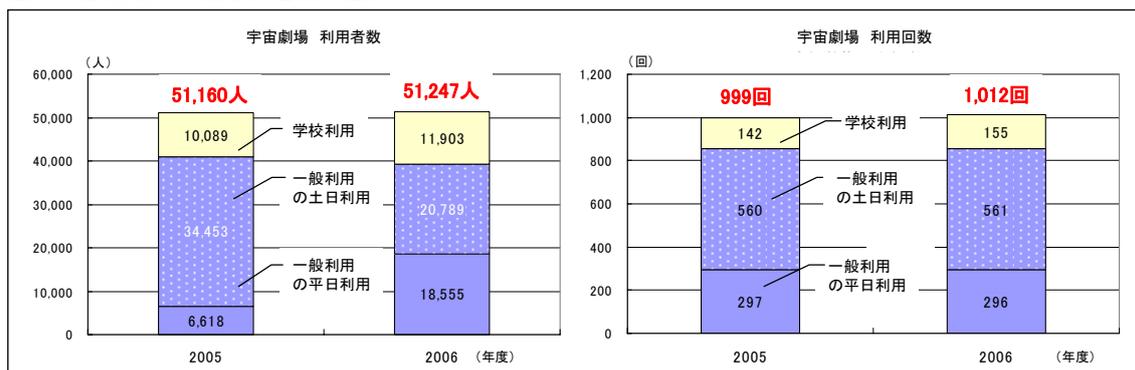
■ワークショップ・陶芸教室

ワークショップは毎週土日のみ開催しており、焼きものや工作、野外観察などを行っています。

2006年度のワークショップの利用者数は、179回、1万7,327人で、1回当り約97人が利用しています。陶芸教室は年間12回、224人が利用しています。1ヶ月に1回開催し、1回当り平均18人が利用しています。

ワークショップや陶芸教室に使用する部屋は、開催時以外は市民の個別利用はできなくなっています。

図 宇宙劇場の入館者数と上映回数



2) 市民シアター

市民シアターは700席（固定席600席）をもち、音楽から演劇まで幅広いイベントを開催できる「ホール」や「リハーサル室」「スタジオ」などの貸出しや主催事業の開催を行っています。

2006年度（H18年度）の市民シアターの利用状況は、1,177件、6万7,618人が利用しています。1日当たり平均約4件、約222人が利用しています。

利用状況は、2002年度（H14年度）の1,187件からほぼ変わっていません。

利用は、ホール及びリハーサル室利用が中心で、全体の約92%を占めています。

また、利用内容別では、約73%が一般利用であり、文化振興財団の主催事業は全体の約2%になっています。

図 市民シアターの利用件数及び入場者数の推移

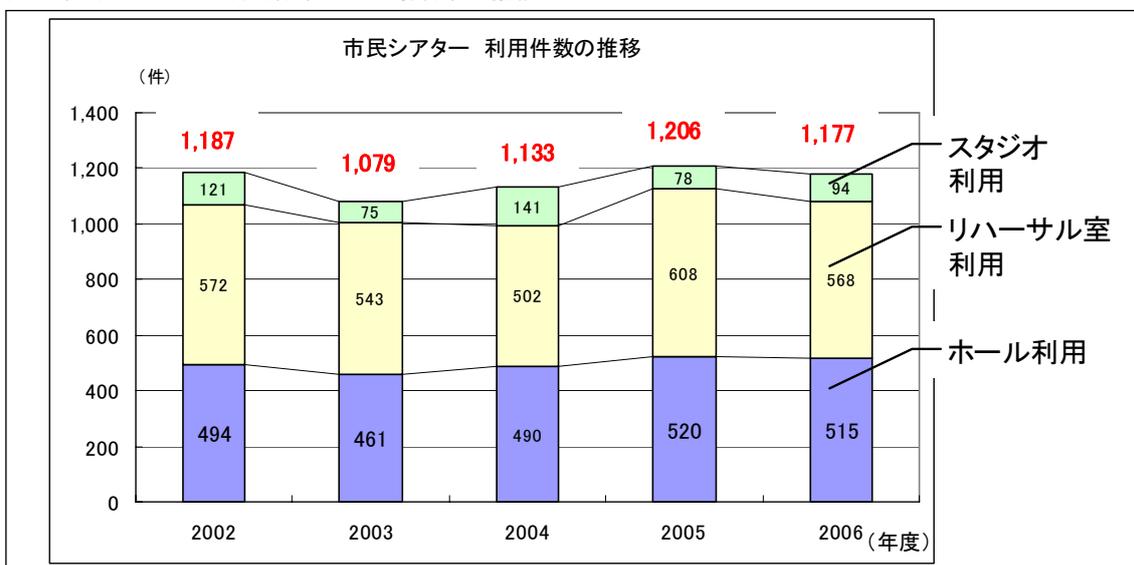
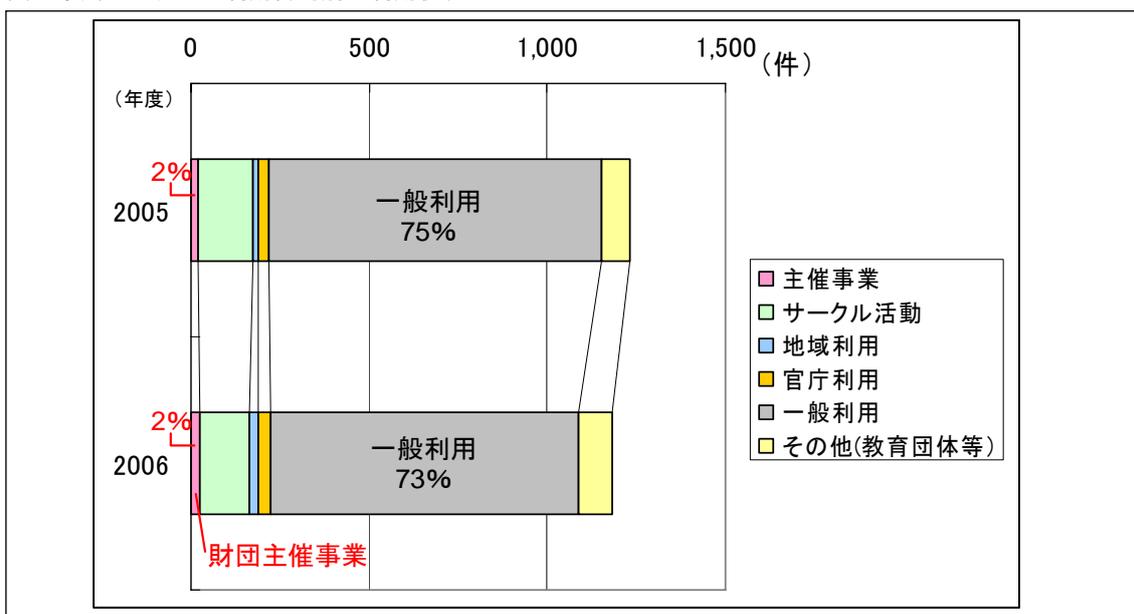


図 市民シアターの利用目的別の利用状況



③ 運営状況

湘南台文化センターはこども館事業が 11.9 人、市民シアター事業が 7.6 人、施設の維持管理に 1.5 人、合わせて 21 人で維持管理・運営を行っています。そのうち市職員は 3 人で、こども館事業、市民シアター事業、施設維持管理業務を行っています。

こども館の展示ホールや宇宙劇場、ワークショップの開催、受付・案内、運営は「財団法人藤沢市まちづくり協会」が全て行っています。

市民シアターの舞台運営は、市民会館と同様に「藤沢市民会館サービスセンター株式会社」に委託しています。また、市民会館と同様に「財団法人藤沢市芸術文化振興財団」が市民シアターで演劇、ミュージカル等の文化事業を主催して行っています。

表 湘南台文化センター業務内容及び運営人員

	事業名称	業務内容	2006	
財団業務	こども館事業	・展示ホールの利用受付・案内 ・展示ホールの維持管理等 ・宇宙劇場の企画・開催 ・宇宙劇場の利用受付・案内 ・ワークショップの企画・開催 ・陶芸教室の企画・開催	11人	21人
	市民シアター事業	・施設利用に関する利用受付・案内 ・各種講座・講演会等の主催 ・その他(舞台業務)	7人	
	市職員業務	・こども館事業管理業務 ・市民シアター事業管理業務 ・施設維持管理事業管理業務	3人	

④ コスト状況

湘南台文化センターの 2006 年度 (H18 年度) トータルコストは、5 億 382 万円です。そのうち、事業運営にかかるコストは、約 3.0 億円 (59%)、施設にかかるコストは、約 2.0 億円 (41%) となっています。湘南台市民センター・公民館と併設しており、建物全体のコスト (約 6.8 億円) の約 74% を占めています。

湘南台文化センターは、運営業務を委託しており、その委託料は約 2 億円と、全体の約 42% を占めています。また、市職員の人件費は約 0.3 億円 (6%) かかっており、業務委託料と人件費でトータルコスト全体の約半分を占めています。

過去の施設整備等の利息支払いが年間約 0.4~0.6 億あり、2010 年度 (H22 年度) まで返済が残っています。

図 湘南台文化センターのトータルコスト

